

保育現場における保育者と心理臨床家の連携について



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 教授

土永 葉子 Tsuchinaga Yoko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 保育・心理臨床・多職種連携・子ども



研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

保育園や幼稚園などの保育現場において、心理臨床の専門性を有する外部専門家として「子ども理解のカンファレンス」に参加し、保育者と心理職のより良い連携のあり方について実践・研究をおこなっている。

多職種連携は、様々な支援活動の領域でのキーワードとなっており、これは単に制度的、役割的な分業を指すだけではなく、互いの専門性を活かしかうことの重要性を意味している。一方で、心理職がおこなう巡回相談をはじめとするアウトリーチ活動の課題点として、その目的が子どもや環境に起こっている現象について背景や理由について議論を深めるよりも、問題解決や危機介入に特化した関わりが中心となってしまうことが挙げられる。この背景には、保育者が抱く自らの着眼点や、どの子どもを事例化するかということへの迷い、「自分の保育」を安心して語れる場が保障されているかといった構造的な要因などがあると考えられる。

保育者の学びの場が外部専門家による一方向の「講義型園内研修」から脱却するにはどうすればよいのか。現場の保育者への聞き取りや保育をめぐる社会状況の分析等を通して、保育者と関連多職種が、お互いの専門性を活かしながら同じ子どもや保育実践について対話を深めるための諸条件について探求している。

また、園長をはじめとする保育施設の管理職者との個別面談を通して、園運営や認知行動療法を用いた職員のメンタルヘルス、職場の人間関係について考えるためのコンサルテーションもおこなっている。

カンファレンスの考え方と位置づけ

「子ども理解のカンファレンス」

- ①カンファレンスの参加者はすべて、子どもの発達にチームで携わる専門職同士という対等な関係
- ②一人の子どもについてみんなで話し合う
- ③対応の不備や至らない点を探すのではなく「できること」を見つける
- ④カンファレンスの終了後、ケースの提示者が「この子とまた関わってみよう」と思えるようにする

以上4点を、参加者間で共有した上で話し合う。

★「子どもの生活の中での育ちや学びを味わうこと」「様々な保育観や専門性から複数の視点が出されるおもしろさ」をカンファレンスの中心に据える



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

臨床心理学の知見を保育現場に還元することで、保育者のより多面的な子ども理解につなげることができる。また、次のような協力が可能である。

- ・特別な支援や配慮を要する子ども・家庭に関する保育者研修の開催や巡回相談
- ・講義型ではない、多職種同士の対話を重視した継続的な「子ども理解のカンファレンス」の実施

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「保育園におけるカンファレンスのあり方に関する検討ー同一保育園での15年以上にわたる参加を通してー」
- ・「『講義型園内研修』からの脱却ーある保育園での子ども理解のカンファレンスを通してー」
- ・「アタッチメントの担い手としての保育者ー「安心感の輪」子育てプログラムからの考察ー」